

第 90 回 統計委員会 議事概要

1 日 時 平成 27 年 8 月 27 日（木） 9 :55～10:24

2 場 所 中央合同庁舎 4 号館 12 階共用 1208 特別会議室

3 出席者

【委員】

西村委員長、北村委員長代理、川崎委員、西郷委員、白波瀬委員、中村委員、中山委員、野呂委員、廣松委員、宮川委員

【統計委員会運営規則第 3 条による出席者】

《国または地方公共団体の統計主管部課の長等》

内閣府経済社会総合研究所長、内閣府経済社会総合研究所総括政策研究官、総務省統計局統計調査部長、財務省大臣官房総合政策課経済政策分析官、文部科学省生涯学習政策局政策課教育分析官、厚生労働省大臣官房統計情報部長、農林水産省大臣官房統計部長、経済産業省大臣官房調査統計グループ長、国土交通省大臣官房審議官、日本銀行調査統計局参事役、東京都総務局統計部長

【事務局等】

杉原内閣府大臣官房審議官、伊藤内閣府大臣官房統計委員会担当室長、上田内閣府大臣官房統計委員会担当室参事官、田家総務省政策統括官（統計基準担当）、吉牟田総務省政策統括官付統計企画管理官

4 議 事

（1）部会の審議状況について

（2）その他

5 議事概要

(1) 部会の審議状況について

廣松サービス統計・企業統計部会長から、資料に基づきサービス統計・企業統計部会における小売物価統計調査の変更に関する審議状況について報告された。

主な発言は以下のとおり。

- ・住宅の経年劣化に関する家賃の品質調整を、消費税抜き指数の算出に優先して取り組むことには疑問。住宅の経年劣化は、概念上把握しにくく、この調整は一般の人には理解しにくい。消費者物価指数は金融政策だけでなく年金の調整などにも使われるなど影響が大きいため慎重な議論が必要。
- ・家賃の品質調整について、金融政策などに関係するのは伸び率であり、伸び率変化の検証が必要。また、インターネット上の取引面にも対応しているのかが実体経済を把握する上では重要。

→頂いた意見について、十分配慮した上で部会の審議を進めたい。もし、同一家屋の経年劣化を調べようとする、パネルデータ作成の検討など調査方法にも大きな影響が及ぶ。消費者物価指数だけでなく小売物価統計全体の問題。部会審議の基本的な方針としては、小売物価統計及びそれに基づく消費者物価指数をいかに統計として整備するかということであり、技術的・中立的な立場で進めたい。

→家賃の品質調整は、消費者物価指数がそもそもコスト・オブ・リビングなのかコスト・オブ・グッツなのかという根本的な問題に関わる。経済学の立場からは品質調整されるべきであり、現在の状況は問題がある。コスト・オブ・リビングとコスト・オブ・グッツをどう扱うかについて基本的な考え方を整理することは必要。また、調査方法について、家賃調査区を指定して調査する方法で本当によいのかという問題もあるが、変えるにはコストベネフィットを考えることが必要。難しい問題であるが、調査当局が矜持を持って取り組んでいることに感銘を受けている。この議論はスピード感を持ちつつ、拙速ではなく力を込めた対応をしていただきたい。

(2) その他

次回統計委員会は、9月17日（木）の基本計画部会終了後、中央合同庁舎4号館12階の共用1208特別会議室で開催する予定。

以上

<文責 内閣府大臣官房統計委員会担当室 速報のため事後修正の可能性あり>